

今秋導入される連節バス23日、奈良市左京6の平城営業所

# 連節バス

奈良交通

## 学研都市で運行へ

CO<sub>2</sub>削減貢献  
関西3.1力所目

奈良交通(奈良市植田長寿社長)は23日、車両2台をつないだ「連節バス」を、奈良市左京6丁目の平城営業所で報道関係者に公開した。今秋、けいはんな学研都市の精華町域の近鉄線新祝園駅と、JR学研都市線祝園駅を発着する路線バスとして運行する。

企業や研究施設の新職員の通勤の利便性向上や、自家用車からの利用転換を促進することと二酸化炭素排出量の削減を図ることが目的。同バスの運行は全国9カ所目、関西では兵庫県三田市(神姫バス)、滋賀県草津市(近江鉄道バス)に次いで3カ所目となる。



車内の連節部分＝23日、奈良市左京6の平城営業所

今回の同バス運行については、同社が参画する同町地球温暖化対策地域協議会で、温室効果ガス排出量の削減に向けて同バス導入が決定されたことを受けたもの。バスは全長約18.5m、幅約2.5m、高さ約3.2m。乗車定員は大型バスより約50人多い130人。車体がスカニア社(スウェーデン)製で、シャーシー(足回り機構)部分がボルケン社(オーストラリア)製。エンジンは9000cc、360馬力。

連節部分は車体のひねりに対応する構造で、幌(ほろ)が付けれられて通り抜けが可能。ノンステップ式で車椅子も2台利用できる。車両価格は1台約9000万円、2台導入。同営業所に新設した整備工場などを含む今回の同バス導入の事業費は、環境省から2分の1の費用補助があるという。

運行路線や運行開始日については未定。車両デザインも今後正式に選定する。同日、同営業所で会見した同社の福本隆史専務兼自動車事業本部長は「当面は朝夕を中心に運行を考えている。中間時間帯についても需要があれば増便したい」と話した。

報道各社に公開された連節バス＝奈良市左京6丁目の奈良交通平城営業所



## 「連節バス」お披露目

奈良交通 学研都市へのアクセス向上へ

奈良交通(本社・奈良市)は23日、けいはんな学研都市の中心部で今秋から運行させる「連節バス」を報道関係者に公開した。バス2台をつないだ大きいため、多くの人数を輸送できる。増加が見込まれる通勤者の利便性向上や、マイカー通勤によるCO<sub>2</sub>排出量の削減が目的だ。

学研都市の「精華・西木津地区」は企業や研究施設などが次々と集積し、通勤者や住民が増えている。同社によると、最寄りのJR祝園駅・近鉄新祝園に発着するバスの便数が限界に達しているうえ、マイカー送迎によるバスの遅延も多発しているという。

連節バスは、こうした混雑の解消と、マイカーからの転換がねらいで、環境省の補助を得て2台を導入した。車体や装備品はスカニアとオーストラリアのメーカーで製造され、1両の長さ約18.5m(通常の大型バスは約11.5m)、乗車定員は130人(同約80人)。エンジンの排気量も9千cc(同5千cc)と大きいのが、国内での排ガスの環境基準はクリアしているという。

奈良新聞 (H29. 3. 24)

朝日新聞 (H29. 3. 24)

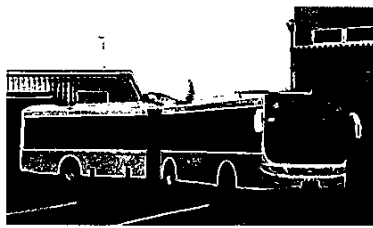
正しく見えることを大切に

ルック・ワタナベ  
**WATANABE**  
本店・先斗町四条角(221)3334  
京・下京区西大路七条東入ル  
(075)315-1005-313-7745  
名店・先斗町四条上(221)0403

価格は車両本体だけで1両約9千万円。運行路線などは今後、府や精華町などと協議して決める方針。朝夕のラッシュ時を中心に運行させる。

## 関西学研都市と駅結ぶ連節バス運行へ 京都府内で初

京都新聞 3/23(木) 18:43配信



京都府精華町で今秋から運行予定の連節バス（奈良市左京・奈良交通平城営業所）

京都府精華町で今秋から奈良交通が運行予定の連節バスが22日、奈良市左京の同社平城営業所で披露された。JR祝園駅・近鉄新祝園駅と関西文化学術研究都市「精華・西木津地区」を結ぶ路線を予定している。2台の車体がつながった連節バスの運行は府内では初となる。

連節バスはスウェーデン・スカニア社製で全長18メートル。標準的なバスより7メートルほど長く、ほろの部分を通じて前後を自由に移動できる。定員は同社の路線バス（83人）より多い130

人。1台約9千万円で、奈良交通は国の補助（半額）を受けて2台導入した。

精華・西木津地区は近年、住民の増加に加えて企業の進出が相次ぎ、朝夕の通勤時間帯にはバス利用客が増えており、府と町が同社に連節バス運行を求めている。駅西側の大型商業施設前のバスターミナルから、けいはんなプラザなどを経て、光台を循環するルートが検討されている。試験運行をした後、早ければ9月にも朝夕を中心に連節バスが運行する。

奈良交通の増本隆史専務は「新車両の導入を地域発展の起爆剤にしたい」と話していた。